

総務環境委員会説明資料

第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想（案）について

令和元年12月23日

総務局

目 次

1 第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想（案）	
（1）趣旨等	1頁
（2）経緯	1頁
（3）現状と課題	2頁
（4）開発コンセプト及び目指すべきまちの姿	4頁
（5）土地利用の考え方	5頁
（6）事業化に向けて	7頁
（7）開発スケジュール	7頁
2 今後の予定	8頁

（参考）第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想（案）

1 第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想（案）

（1）趣旨等

区 分	内 容
趣 旨	第20回アジア競技大会のメイン選手村として利用予定の名古屋競馬場跡地について、2030年頃を見据え、大会後も有効活用されるよう将来のまちづくりの方向性を示すために、本市及び愛知県が策定するもの
位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本市が策定した「名古屋市総合計画2023」及び「2026アジア競技大会NAGOYAビジョン」と整合 ・県が策定した「あいちビジョン2020」及び「アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン」と整合
目標年次	アジア競技大会開催後の令和12（2030）年頃

（2）経緯

区 分	内 容
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・民間研究会において事業者との対話を実施 ・アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会（第1回、第2回）を開催
令和元年度	アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会（第3回）を開催

(3) 現状と課題

ア 計画予定地

区 分		内 容
所 在 地		名古屋市港区泰明町1-1 (名古屋競馬場)
敷地面積		約20.7ha
交 通		・ 計画予定地東側に市道名古屋環状線 (太平通) 北側に市道東海橋線 (東海通) ・ あおなみ線名古屋競馬場前駅徒歩3分 ・ 市バスの停留所が3か所、運行系統が4路線
都 市 計 画	用途地域	第二種住居地域
	容 積 率	200%
	建 蔽 率	60%
	そ の 他	準防火地域、31m高度地区、緑化地域
その他の制限		臨海部防災区域 (第3種区域)

イ まちづくりに向けた課題

- ・ 少子化、高齢化に伴う人口構造の変化
- ・ 価値観、ライフスタイルの多様化
- ・ 自然災害に対する懸念
- ・ 環境の持続可能性に対する懸念
- ・ リニア中央新幹線の開業に伴う変化
- ・ 交流人口の増加
- ・ 産業を取り巻く環境の変化

ウ 前提条件

区 分	内 容
選手村を前提としたまちづくりの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・大会前、大会時、大会後の3つのステップを意識した事業を計画 ・選手村として活用できる後利用施設を大会後も残す前提で整備 ・大会後の整備は、まちの将来を見据え暫定利用も含めた段階的なまちづくりも検討
地域イメージの転換を図る民間開発の誘導	民間開発を誘導するため、市民ニーズの高い防災公園等の都市基盤整備を県市共同で推進
場外馬券売場の設置	場外馬券売場の配置や規模は、後利用の開発計画と整合を図るよう愛知県競馬組合と調整

(4) 開発コンセプト及び目指すべきまちの姿

ア 開発コンセプト

安心と交流を生み出す次世代拠点
～新しいライフスタイルがはじまる、スマートビレッジ～

イ 目指すべきまちの姿 (5つの夢)

区 分	内 容
GO ACTIVE	スポーツにより健康に暮らし、元気になるまち
GO ASIA	多様な人々が国内外から集い、グローバルに成長できるまち
GO GREEN	憩いやつどいの場があり、安全・安心でエコな暮らしが実現するまち
GO FUN	にぎわいがうまれ都市の魅力が高まり、国内外に誇れる楽しいまち
GO FUTURE	未来を身近に感じ、イノベーションが創出されるまち

(5) 土地利用の考え方

ア 基本的な考え方

区 分	内 容
パブリックスペースの創出・活用	公設、民設を問わず誰もが利用できる一体感のあるパブリックスペースの創出・活用を目指す
計画的な土地利用	計画的な開発により地域のポテンシャルを向上させ、都市機能の誘導を図り、新たな地域の拠点形成を目指す
交通動線の考え方	敷地の広さを活かし、来訪する人や生活する人が居心地よく歩きたくなる空間形成を目指す

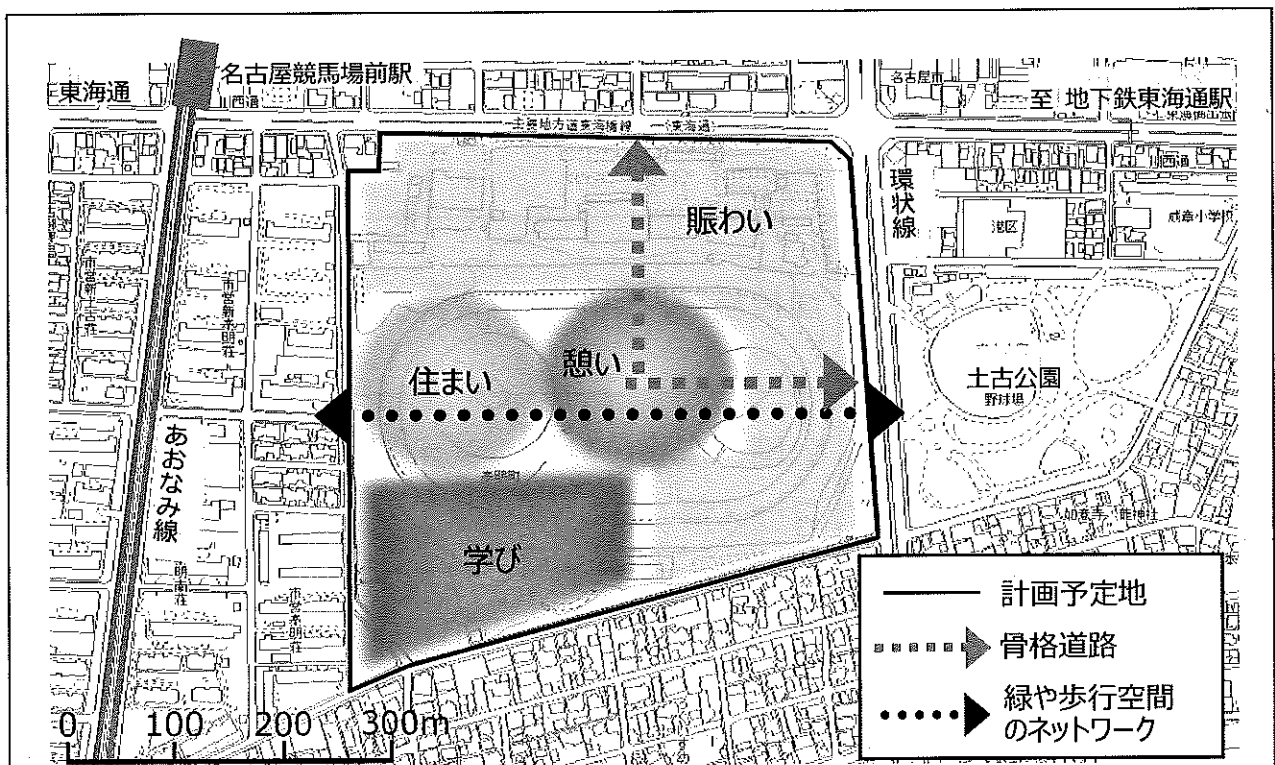
イ 誘導する機能・施設

区 分	内 容
賑わい	商業施設、体育館・アリーナ、場外馬券売場等
学 び	学校施設、留学生宿舎、研修・合宿施設等
憩 い	公園、広場・緑地、ジョギング・ウォーキングコース等
住まい	先端技術が導入された住宅等、未来を身近に感じ、エコな暮らしが実現する良好な住環境

ウ 都市基盤整備

区 分	内 容
骨格的な道路及びネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画予定地への民間開発の誘導及び開発に伴い発生する交通を処理するために、東海通と環状線に接続する骨格的な道路を整備 ・ 計画予定地の東西を結ぶ緑や歩行空間のネットワークを整備
公園等の配置	計画予定地の中心には、公園等の憩いの空間及び災害時の防災機能を兼ね備えたオープンスペースを効果的に配置
雨水貯留施設の設置	豪雨時の周辺の浸水被害状況を踏まえて、地域の状況に応じた雨水貯留施設を設置

エ 土地利用イメージ



(6) 事業化に向けて

区 分	内 容
官民連携による開発の推進	<ul style="list-style-type: none">・都市計画制度の活用・都市基盤整備と連携・エリアマネジメントの導入
選手村整備事業との連携	大会期間中に必要となる選手村施設を整備・運営する組織委員会と連携
計画予定地を核としたまちづくりとの連携	港北エリアのまちづくりにおけるハード・ソフト面の取組と連携
まち全体での取組	<ul style="list-style-type: none">・防災・減災に向けた取組の推進・景観形成の誘導・先端技術の積極導入によるSDGsの実現に向けた取組の誘導

(7) 開発スケジュール

区 分	内 容
令和2年度～	開発事業者を公募
令和4年度～	後利用施設、都市基盤及び選手村施設の工事等を実施
令和8年度	第20回アジア競技大会を開催 (選手村として活用)
令和9年度～	大会後に整備予定の施設及び都市基盤の工事等を実施

2 今後の予定

区 分	内 容
令和2年1月中旬～ 3月末	パブリックコメントを実施 第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想を 策定及び公表